

ひたすら乳首を責めながら  
俺をイカせまくるSな後輩は好きですか？

●タイトルコール

結愛

「ぱちぱちぼいす」

結愛

「ひたすら乳首を責めながら俺をイカせまくるSな後輩は好きですか？」

●あらすじ

結愛

「ドMな先輩主人公に興味津々なDの後輩・結愛ちゃん」

結愛

「先輩のアレな秘密を盾にして、二人はお付き合いすることになった」

結愛

「両親不在な結愛ちゃんの家で繰り広げられる二人の世界」

結愛

「センパイの敏感乳首をいじめてたら、どんどん我慢できなくなって……」

★トラックの「センパイってドMですよね？」

●学校の教室（夕・放課後）

結愛

「あ、センパイ。来てくれてありがとうございます。」

ふふっ」

結愛

「そうです。私がセンパイを呼び出したんですよ？大事な話がしたくて……」

結愛

「誰もいない放課後の教室に、女の子が男子を呼び出してるんですから、何の話か、想像つきますよね……？」

---

結愛 「ちなみに〜……センパイって好きな女の子とか、います?」

結愛 「え? いないんですかあ〜? ふーん……ちよつと意外。……ですけど……まあ、いいです。それじゃあ、もしも私がセンパイのことを好きって言ったら……どうします?」

結愛 「おっ? おやおやおやおや〜……センパイ、頬が真っ赤になってますよね? これは……夕陽のせいじゃないですよね!??」

結愛 「これは、もしかしくなくても……センパイって私のこと、好き、ですよね? ……ちなみに、私。センパイなら付き合ってあげてもいいですよ?」

結愛 「って……あっはっははは……すっごく慌ててるじゃないですか! 面白いように反応するんですね。もうバレバレですよ?」

結愛 「ふふっ……いいですよ? 付き合ってあげても。私も……センパイに興味があるんです」

結愛 「ん? 興味ってどういうことか、ですか? 興味は興味ですよ。わかりませんか? じゃあ、ずばり言いますけどおー……センパイって……」

結愛 「(耳元で囁くように)……ドM、ですよ?」

---

---

結愛 「どうしてそう思うのか、ですって？ 見てればわかりますよ。だって、私は――……」

結愛 「（耳元で囁くように）……ドS、なんですから」

結愛 「と言っても、私、痛くするのはあんまり好きじゃないんです。かわいがる系っていうか、ネチネチいじめるのが好きなんですが、特に――」

結愛 「（耳元で囁くように）……センプイみたいな変態さんを責めるのが大好きなんです」

結愛 「……あ、今、ちょっと興奮しました？ 私ね、知ってるんです」

結愛 「（耳元で囁くように）……センプイは……乳首を……自分でいじるのが好き、でしょ？」

結愛 「だって見ちゃったんですから。センプイが部室でオナニーしてるところ。乳首をいじりながら、私の名前を呼んでましたよね……」

結愛 「センプイのオナニーってオカズが私なんですか？ しょーじきに言ってください」

結愛 「（耳元で囁くように）……は、や、く。しょーじきに。私を、オカズに、してるんでしょう？」

結愛 「ふふふっ。……はい、ですって。後輩の私に敬語を使うなんてやっぱリドMですね、センプイは」

---

---

結愛

「楽しそう？ 私がですか？ もちろん楽しいですよ。センプイをいじめることができてるんですから……」

結愛

「言葉でいじめてるだけですから全然物足りませんけれど」

結愛

「んー？ オカズにされて気持ち悪くないのか、ですって？ 他の男子だったら嫌ですけどお、センプイならぜんぜん気持ち悪くないですよ。すっごく嬉しいです。ふふふっ」

結愛

「だから、センプイと付き合えるのならとっても嬉しいんですけど、どーですか？ 彼女にしてくれるのなら、いっっぱいかわいがってあげますよ？」

結愛

「（耳元で囁くように）……センプイの性感帯の乳首も……。……もちろん男の子の……。……かたあい棒も同時にシコシコしてあげますよ？」

結愛

「あははっ。そんな必死な感じで頭下げて、お願いしますなんて……。かわいい！ 先輩なのにかわいいなんてずるいですよね」

結愛

「じゃあ、これからウチに来ませんか？ 今日はお親いないんです。センプイの想像通りのことが起こっちゃうかもですよ？……ふふふ……」

---

結愛

「どうします？ ん？ どうして迷うんですか？ 何か用事でもあるんですか？ ない？ それなら迷うことないじゃないですかー」

結愛

「もしかして、まだ照れがあるんですか？ 私をオカズにしながら乳首をいじってオナニーしてるくせに。今更何を恥ずかしがることがあるんですか？」

結愛

「そうそう。素直に頷いておけばいいんです、センパイは。じゃあ、行きましょ」

★トラック22 センパイの乳首弄りますね。

●結愛の家・結愛の部屋（夕）

結愛

「どうですか、私の部屋は？ ……緊張する？ ……いい匂いがする？ んふふー、嬉しいこといってくれますねえー」

結愛

「それじゃあセンパイ。早速ですけど、DMなセンパイのち、く、び。触ってあげますね……」

結愛

「（耳元で囁くように）……ふふ……ほら、センパイわかりますか？ 制服のシャツの上からコリコリコリ……って……」

結愛

「（耳元で囁くように）……ああ、このグミみたいな感触の膨らみ……センパイの乳首だあ……コリ……コリ……コリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……きゅって摘まんだり……ひっぱったり……それでえー……またコリコリするの……コリ……コリって……」

結愛

「ふふふっ。もう勃起しちゃってますよね？ 敏感ですねえ。直に触ったらどうなっちゃうんですか？ 直接触って欲しいですか？」

結愛

「じゃあ、このまま……私が制服を脱がせてあげますね。まずはボタンから……（興奮している様子で）んっ……はあ……ああ……」

結愛

「Ｔシャツも脱いで……ああ、センパイの乳首が出てきましたよ。かわいいな……。センパイのオナニーを見て以来、私がいじってあげたいなって思ってたんですよ？」

結愛

「うん、センパイは素直ですね。それじゃあ、次に……ズボンを脱ぎましょうか……」

結愛

「ベルトを外して、チャックを下ろしして……ふふっ。出てきましたね、センパイの……。ほとんど垂直にいきり立ってるじゃないですか。すごーいい」

結愛

「こんなに立派なモノ、ネットでも見たことないですよ。ん？ 私ですか？ 本物を見るのは初めてですよ。こういうことするのも初めてですし」

結愛

「でもね、ず——っと妄想してたんです。誰かをかわがいてあげたいな——虐めてあげたいな——……って」

結愛

「そしたらセンパイがオナニーしてるじゃないですか。私の名前を呼びながら自分で乳首をいじって、硬くなった棒をシコシコって……」

結愛

「そんなの見ちゃったら絶対乳首責めしてあげよって思うじゃないですかあ——……違いますか？」

結愛

「ふふっ。何も言わなくてもわかりますよ。もうホント、センパイ自身がかわいいんですから……。じゃあ、直接触りますよ、センパイの乳首……」

結愛

「（ゆっくりと）コリ……コリ……コリ……。どうですか？ 直接触られるのは……。そうですか。気持ちいいんですね？ ふふふっ……」

結愛

「なら、こうやってキュッて摘まむのは？（ゆっくりと）キュッ……キュッ……。キュッ……キュッ……。摘まんだり、緩めたり……」

結愛

「こうやって摘まんだまま、キュッ……って引っ張ったりい……。もう一度……キュッ……そして、またコリ……コリ……コリい……」

結愛

「もちろん、こうやって喋ってる間もずっと乳首をいじっててあげますからね……コリ……コリ……キュッ……キュッ……コリ……コリ……」



結愛

「どの触り方も気持ちいいですか？ まあ、聞くまでもないですよ。乳首を刺激するたびにセンパイはピクピクって震えてるんですから……」

結愛

「特に足が震えてますね。生まれたての子鹿みたい。……ん？ もしかして立っていられないんですか？ 乳首を触られてるだけで？」

結愛

「そうですか……立っていられないんですね。でも、そんなこと聞いちゃったら、もっと虐めたくなっちゃうじゃないですかあ……」

結愛

「……ふふふっ……コリ……コリ……反対側の乳首も同時にいじってあげますね……コリ……コリ……コリ……コリ……」

結愛

「コリ……コリ……んっ……またキュッって引っ張ってえ……コリ……コリ……コリ……コリ……はああああ……コリ……コリ……」

結愛

「二つの乳首をいじられて、ずっと震えてるじゃないですか、センパイ。私が想像してたよりもずっと敏感で嬉しいです……ふふふっ……」

結愛

「コリ……コリ……コリ……キュッ……コリ……コリ……はあ……コリ……コリ……んっ……コリ……コリ……」

結愛

「足がガニ股になってきましたね、センパイの性器……全然触ってないんですよ？」

結愛

「……なのに涎が出るくらい感じてるんですか？ 口元から垂れてますよ？ ああ、拭こうとしちゃ駄目です！」

結愛

「（耳元で囁くように）……センパイのだらしない顔もちゃんと見せて……コリ……コリ……コリ……キユ……コリ……コリ……コリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……キユ……キユ……コリ……コリ……キユ……キユ……はあ……摘ままれるのも好きなんですネ、センパイは……」

結愛

「（耳元で囁くように）……っていうか、乳首をいじられるのなら何でもよさそうですね。ふふふ……もっといろいろしちゃおうと……」

結愛

「（耳元で囁くように）……コリ……コリ……コリ……はあ……コリ……コリ……コリ……コリ……コリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……はあ。乳首で感じてるセンパイを見て私が興奮しちゃいますよお……んっ……はあ……んっ……はあああああ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……コリ……コリ……コリ……んっ……コリ……コリ……コリ……はああああああ……コリ……コリ……コリ……」

---

結愛

「（耳元で囁くように）……何ですか、センパイ？  
もう立てない？ それくらい感じてる……と？ ……  
…ふふふっ……ますますいじめたくなっちゃうじや  
ないですか？」

結愛

「（耳元で囁くように）……コリ……コリ……コリ……  
…ほとんど俯いちゃってるじゃないですか、センパイ……  
コリ……コリ……コリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……ふふふっ……足ががくが  
くしてますね……我慢しないで……感じてるとこ  
ろ、もっと見せて下さい……」

結愛

「え？ 無理？ どうしてですか？ ここまできて、  
何を恥ずかしがることがあるんです！？」

結愛

「えっ！？ もうイキそう！？ でも、私、センパイ  
のモノ、触ってないですよ？ 両方の乳首をいじり  
続けてるだけですよ？」

結愛

「なのにイキそうなんですか？ ふうんっ……センパイ  
って乳首だけでイけるんだあ……自分でも知らな  
かった？ じゃあ、私が開発しちゃったんですか  
ね？」

結愛

「ふふふっ。嬉しい。じゃあ、センパイ。このまま乳  
首をいじってあげますから好きなきにイッて下  
さいね。ちゃんと射精する瞬間、私が見てあげます  
から」

---

結愛

「コリ……コリ……コリ……コリ……はあ……コリ……  
……コリ……コリ……コリ……ふう……コリ……コリ……  
……コリ……」

結愛

「あっ、あっ、あっ……。センパイ、すっごい喘いで  
ます、かわいい。あっ、あっ、あっ……。ほら、  
もっと聞かせて下さい。あっ、あっ、あっ……！」

結愛

「わっ、センパイのうめき声が大きくなった……！  
もう出ます？　じゃあ、出して下さい、ほら、この  
まま乳首をキュゥって摘まんであげますから……  
……！」

結愛

「びゅーって遠くまで射精するとこ見せて下さい……  
……！　あっ、あっ、あっ……あっ、あっ、あっ……  
……！　キュウウウゥ……！」

結愛

「ひゃあっ……！　出た！　精液、出ました……！  
遠くまで飛んでる……凄い……！　ああっ……！  
射精してるセンパイの乳首、引っ張ってあげます……  
……！」

結愛

「キュウウウウゥ……っ！　あははははっ、凄い……  
……！　絞り出されてるみたいにまだ精液がでる……  
キュウウウウゥ……っ！」

結愛

「ふふ……もう射精は終わってますよ？　なのに乳首  
コリコリするたびに、センパイのがぴくぴくって跳  
ねてるじゃないですか。刺激、強すぎですか？」

---

結愛 「しょーがないですねえ……一度、手を離しますよ？  
はい」

結愛 「やだ、センパイ。フラフラしてるじゃないですか。  
無理に立とうとしなくていいですよ。私のベッドで  
寝て下さい」

★トラック03:センパイは私の命令に絶対服従ですよ？

結愛 「ああ、下半身のモノをガチガチに勃起させた裸のセ  
ンパイが、ベッドに寝転がっているなんてドキドキ  
しちゃいますね」

結愛 「っていうか、射精したのにギンギンのままじゃない  
ですか。射精したら小さくなるはずじゃないんです  
か？」

結愛 「私の乳首責めが凄くて興奮が治まらない？ ふ  
ふっ。気に入ってもらえて何よりです。私はまだま  
だいじり足りないので……」

結愛 「じゃあ、今度は趣向を変えて乳首を触ってあげます  
ね。そのままじっとしてて下さいね……。優しく摘  
みますよお……キュッ。……もう一度、キュッ。  
緩めて、キュッ……」

結愛 「ふふっ……摘まむたびに、背筋がぴんと伸びちゃっ  
てるじゃないですか、センパイ。まるで電気で痺れ  
てるみたい。そおんなに気持ちいいんですね……」

---

---

結愛

「（耳元で囁くように）……私の乳首責め。感じてくれて私も嬉しいです……ふふっ……こうしている時もちゃんとキュツ、キュツて……」

結愛

「（耳元で囁くように）……両方の乳首をキュツ、キュツ……キュツ、キュツ……コリ、コリ……コリ、コリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……コリコリコリ……ふふっ。触り方を急に変えたら、ピクンってセンパイの身体が跳ねましたね……」

結愛

「（耳元で囁くように）……コリコリコリ……コリコリコリコリコリイ……んっ……はあ……んっ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……ああ、私、とってもコーフンしています……。きっともう濡れてますよ、私の大事なアソコ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……見たいですか？……ふふ、慌てなくても今見せてあげますね……スカート……めくりますよ……」

結愛

「ほら。パンツ、濡れてるでしょう？……え？もっと近くで見たい？ いいですよ？」

結愛

「んっ……それじゃあセンパイの顔に失礼しちゃいまーす」

---

---

結愛 「ああ……センパイの息が股間に当たってます……ん  
んっ……はあ……これ、顔面騎乗って言うんですよ  
ね？ はあ……」

結愛 「……知ってますか？ 顔面騎乗。……ふふっ。知っ  
てるんですね。さすがエッチなことに詳しいですね  
……ああ……」

結愛 「あんっ。動いちゃダメですってばあ……。いいです  
か、センパイ？ 今からセンパイは私に虐められる  
んです。でも……だからって手錠したり、縛ったり  
はしません」

結愛 「ただ、私が『動くな』って命令しますからあ……。  
センパイは私の命令に絶対服従ですよ？ それじゃ  
あ、センパイ……『動くな！』」

結愛 「そう。そうです。じっとしててくださいね……」

結愛 「コリ……コリ……コリコリコリ……。コリ……コリ  
……コリコリコリ……」

結愛 「どうやって触ってるのか、ですか？ センパイから  
は見えませんか。教えてあげます」

結愛 「こうやって、二つの乳首を、緩急つけて指で転がし  
てるんです。コリ……コリ……コリコリコリ……っ  
て」

---

結愛

「続けますねー……コリ……コリ……コリコリコリ……。次も、コリコリコリ……。あははっ。びっくりしました？ いつも同じテンポとは限らないですよ？」

結愛

「でも、イレギュラーな刺激があった方がいいでしょう？ コリ……コリ……コリ……コリコリコリ……コリコリコリ……って」

結愛

「ふふふっ。エビみたいに背中を仰け反らせるセンパイ、かわいいー……コリ……コリコリコリ、コリコリコリコリコリ……」

結愛

「あああ……熱い息がパンツ越しに、敏感なところへ当たってますけど……こうして……」

結愛

「私のパンツを……センパイの顔にもっと押しつけちゃいますう……んんっ……はっ、あっ……んくっ……」

結愛

「これ、私も……気持ち、いい……ぐりぐりって押しつけると……割れ目にセンパイの鼻が擦れる……はあ……ああ……」

結愛

「どんどんパンツが濡れちゃううっ……センパイ、息、できますかあ？ それとも息苦しいですかあ？ 苦しめるのが私の目的じゃないですからあ……」

結愛

「動くなと言いましたけど、しゃべってもいいですよ？」



---

結愛

「……んんっ……息苦しい？ でも、すごく幸せ？」

結愛

「あはははっ。センパイってホント、Mですね。でも、そーゆーとこ、ホント好き……はあ……ああ……私もすっごく興奮してるからあ……もっとパンツ、濡れちゃいます……」

結愛

「んんっ……でも……そろそろ……パンツじゃなくて……女の子の大事なアソコで直接、顔面騎乗されたくないですか？ そして、そのまま乳首、責められたくないですかあ？」

結愛

「ふふふっ。すいません。モゴモゴいっちゃって……パンツを押し付けすぎちゃいましたね？」

結愛

「それに、領きたくても領けないですよね？ 私が乗ってるんですから……。あ、それとも……『動くな』って命令を律儀に守ってくれたんですか？」

結愛

「そうだとしたらほんとドMですねえ。じゃあ、ちよっと待ってて下さいね。もちろん、そのまま……」

結愛

「立ち上がって何をするのか、ですって？ もちろんパンツを脱ぐんです。アソコが直に当たる顔面騎乗ですよ。嬉しいでしょ？ 違いますか、センパイ？」

---

---

結愛

「ふふふっ。ちょっとだけ首を縦に振りましたね。  
『動くな』って言ったのに。許してあげたいのですが、命令を破ったからにはあ……」

結愛

「いっっぱい、虐めてあげますね……。あれ？ これじゃあ、ご褒美になっちゃうかな？ まいっか……  
じゃあ、パンツを脱ぎまーす……んっ……」

結愛

「……はい。脱ぎました。見えますか？ ……ああ、センパイが夢中で私のエッチな穴を見てます。どうですか？」

結愛

「はつきり見えます？ じゃあ、今度はセンパイの顔に乗りますよー……」

結愛

「あっ！ クリトリスに直接センパイの口があたって……！？ んんっ……！！」

結愛

「コラ！ 先輩……動いちゃダメなんですからね……吸ったり舐めたりしちゃダメですよ……。代わりに、このまま触ってあげますから。センパイの乳首……」

結愛

「ほおーら……コリコリ……コリコリ……本当にグミみたい……押すと柔らかくてプニプニしてる……プニプニ……プニプニ……はあ……んっ……はあああああ……」

---

## 結愛

「ふふっ……ただ、乳首を弄ってるだけだと面白くないので、今度はこういうのはどうでしょう？……  
こうやって……乳輪のまわりをなぞるんです……」

# 結愛

「ふふっ。センパイがぴくっ……ぴくっ……って震えてますね。焦らされてる感じがして気持ちいいんじゃないですか……？」

# 結愛

「でも、まだ触ってあげませーん！　乳輪の周りに指を這わせて……乳首に触れるか触れないかの距離で……はあ……もどかしいですか？　苦しいですか？」

# 結愛

「でも、こうやって焦らされたあとは、きっと気持ちいいですよ？　だから、耐えて下さいね……ふふふっ……」

# 結愛

「ああ……センパイの乳首の周りを十周くらいしましたよ……そろそろ、触ってあげましょうか？ あんっ。お股の下で、顔かないで下さいよお……」

# 結愛

「動くなって命令してるのに……。まあ、でも動いちゃうのは、乳首を触って欲しくてたまらなくなっているからですね……」

# 結愛

「じゃあ、触りますよ……。キュツ！　って摘まん  
で……コリコリコリ……！　コリコリコリ……！」

結愛

「ふふふっ。センパイの硬くて卑猥な棒が、ピクピクって動いてますよお？ 不思議で面白いですねえ。ふふふっ。もっとかわいがってあげます……」

結愛

「……押して、指で転がして……きゅって摘まんで引っ張って……ぱっと離れたら、またコリコリ……コリコリ……」

結愛

「ああんっ……乳首を刺激するたびに背中を仰け反らせるなんてえ……乳首で感じまくりじゃないですかあ……ヘンタイですねえ……でも、かわいい……」

結愛

「コリコリコリ……コリ……コリコリコリ……コリ……コリ……コリ……コリコリコリ、コリコリコリ、コリコリコリ……」

結愛

「あっ、あっ……ってセンパイがアソコの下で喘いで、そのせいで私も気持ちいいです……なんだか焦らされてるみたい……」

結愛

「コリコリコリ……コリコリコリ……コリコリコリコリコリ、コリコリコリコリコリコリ、コリイ……んっ、はあああああ……」

結愛

「センパイの喘ぎ声に合わせて、私も喘いであげますね……ほら、コリコリコリ……あっ、あっ、コリコリコリ……あっ、ああっ……」

---

結愛

「コリコリコリ……あっ、あっ……あああっ……コリコリコリコリコリコリコリコリコリコリ……あっ、あっ、あっ……はああああ……」

結愛

「センパイ……さっきから私の大事なトコロ……舐めてるでしょお……動くなって言っただのに……もお……ガマンできなかったんですかあ？」

結愛

「まあいいですけどお……じゃあ、首から上だけ動いていいですよお……って……ちよ、あっ！ そんな、急に激しく舐めるなんて……！」

結愛

「やだあっ……！ センパイ、舐めるの上手うつ……！……！……！ しっかりクリちゃんを転がしながら、穴の方まで舐めるの、気持ちいいっ……！」

結愛

「私、センパイに舐められるの、好きかもっ……！……！……！ あああ……！ 本当に上手うつ、ああああ……！……！」

結愛

「ひゃっ、内側の肉をはむはむするなんてっ……！……！……！ どこでそんなテクニクを……！ ふえ……？ ネット……？」

結愛

「彼女もいないのに、ネットでアソコの舐め方なんて調べて……んっ……！ もう、センパイって、そーゆーところもかわいいんですからあ……！」

---

---

結愛

「でも、これ以上舐めると、私のエッチなお汁、いっぱい出てきて、センパイ、窒息しちやいますよお……！」

結愛

「あああつ、せっかく注意してあげたのに、べちよべちよに舐めて、私の話を全然聞いてないんですからあ……！」

結愛

「も、もおつ、そんなセンパイに お返しですっ……！ 指の腹で撫でるようにしてえ……コリ……コリコリコリ……！ コリコリコリ、コリコリコリ……！」

結愛

「あああんっ！ お股の下で急に喋らないで下さいよお……！ 今、感じてて敏感なんですからあ……！」

結愛

「何が言いたいんですかあ……！？ 美味しい？ あ、私の卑猥なトコロが美味しいんですかあ？ さっきからセンパイ、私のエッチなお汁、飲みまくってますよねっ、んっ、あっ……！」

結愛

「お返しに、私がずっと喋ってる間もコリコリコリコリコリ……コリコリコリコリコリ……いじってあげてるんですからあ……センパイも、しっかり舐めて下さいねえ……！」

---

---

結愛

「コリコリコリコリ、コリコリコリコリ……  
あっ、あっ、あっ……コリコリコリコリ……  
はあ……あああっ……コリコリコリコリイ……  
……！」

結愛

「ああっ、気持ちいいっ……！ クリトリスも女の子  
の穴も、センパイが丁寧に舐めてくれるから、私、  
気持ちいいですっ、んんっ……！」

結愛

「コリコリコリコリ……あっ、あっ、あっ……コ  
リコリコリコリ…… ああっ……！ センパ  
イ、私、もう……もうイッちやいますよお……！」

結愛

「ああんっ！ 喋らないで下さいって言うてるの  
にいつ！ えっ！？ またイキそうなんですか、セ  
ンパイ！？」

結愛

「もお、亀頭だって、カリ首だって全然触ってないの  
に、二回も射精するなんて本当にヘンタイなんです  
からあ……！ んんっ、あっ……！」

結愛

「じゃあ、私が、イクのと同時に、乳首を、絞ってあ  
げますからねっ！ ああああ……！」

結愛

「も、もう私、イクから、センパイもイッて……！  
精液、いっぱい射精して……！」

結愛

「あっ、あっ、あっ……！ ほら、あっ、あっ、あっ  
……！ ふふっ……センパイって、こんな感じで喘  
いでるんですよ……！」

---

結愛

「あっ、あっ、あっ……！ あっ、うんっ！ 気持ちいい…… あっ、あっ、あっ……！ あっ、あっ、ああああ……！ もうダメ、私がもうっ……！」

結愛

「やつ、イクっ、イクイクっ……顔面騎乗してるセンパイに舐められて、イッちゃううううううううううううううう……！」

結愛

「あっ、あああっ、あくっ、うあっ、ああああ……！ センパイも射精してるっ……！ ほらっ！ 出しきっちゃえ！ キュウウウってしてあげる……からっ！」

結愛

「……あっ……ああっ……嘘っ！？ イキながら、舐めてるなんて……ちよ、ちよっとまって……私もイッってますっ……！」

結愛

「センパイの乳首をいじりながら、イッちゃってますからあっ、ああああああ……！！！」

結愛

「（息切れしながら）……はあっ……はあ……はあ……！ もう……私の顔まで精液が飛んできましたよ、ほんと……すごい……はあっ、はあっ……！」

結愛

「乳首触られて、あんあん喘ぐDMなセンパイにイカされちゃったああ……センパイ、なかなかやりますね……んっ……」



結愛

「しかも、顔に精液かけられちゃいましたよ……  
じゅるっ……ちゅっ、ちゅぱっ……んっ……変な  
味い……はあ……でも、嫌いじゃないかもお……あ  
ああ……」

結愛

「でもお……まだまだ、こんなところで終わらない  
ですからあ……はあ……私をこんなに興奮させてお  
いて、もう終わりなんて——……」

結愛

「……って、センパイ……2回も射精しているのに全  
然元気ですね……あはっ。センパイの性欲って底無  
しなんですかあ？」

★トラック04:センパイにご褒美あげます。

結愛

「ああっ……センパイの顔が……私のエッチなお汁だ  
らけになってますう……んふふふっ……情けないお  
顔お……でもそんなセンパイも可愛い。だからあ……  
……」

結愛

「（耳元でささやくように）……ご褒美に……キ  
ス……してあげます」

結愛

「んちゅっ……れろっ、ちゅっ……んんっ……  
ちゅっ、れろっ……んぷっ、んちゅっ。はあ……私  
も……私のエッチなお汁を舐めちゃいましたあ……  
……」

---

結愛

「私達、恋人になったわけですし……キスくらいしなきゃ……もちろんセックスも……。でも、それはもう少し、お・あ・ず・け……です。私、もっとセンパイの乳首を虐めたいです……」

結愛

「そんな切なそうな顔をしないでください。私はセンパイの感じてる顔……もっと見たいんですから……ふふふっ……」

結愛

「（耳元で囁くように）それに……センパイももっと乳首、触って欲しいでしょ？　ほら？　センパイのモノは正直ですからねえ……」

結愛

「センパイが頷かなくてもお、かたあい棒が……ビクンツビクンツっ……って、必死に頷いてますよ？　かわいいい……」

結愛

「それじゃ、私も気持ちよくしてもらいましたし……まだまだたくさんいじってあげますね……。また、センパイの身体に馬乗りになりますよ……？」

結愛

「んしょっと……今度は顔面騎乗じゃなくて、ちゃんとセンパイの方を向きました。じゃあ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……今からずっと乳首をいじっててあげます。いじりながら、いっぱいキスしてあげますね……」

結愛

「まずは頬から……んちゅっ……ちゅっ……こうやってキスしながらコリコリされるの、どうですか？」

---

---

結愛

「すごく幸せ？ ふふふっ。そうだと思います。  
ちゅっ……ちゅっ……コリ……コリ……コリコリコ  
リ……コリ……ちゅっ、んちゅっ……はあ……」

結愛

「（耳元で囁くように）……次は、乳首コリコリチ  
ューしましょ、センパイ……んちゅっ！ ちゅっ！  
れろっ！ んふっ、んんっ！ くちゅ、れろ！  
ちゅぱ、ちゅ……！」

結愛

「んちゅっ！ んっ、れろ、くちゅ！ んふっ、ん  
んっ……はあ！ ちゅぱ、んっ、れろっ！ ん  
ちゅっ！ んっ、れろ、ちゅ！ んんふっ、ちゅ  
ぱっ……！」

結愛

「はあ……！ ふふふっ。キスしながらずっと乳首を  
いじってますけど、センパイも敏感になってきてい  
るのか、ずっと背中を仰け反らせてますよね……」

結愛

「（耳元で囁くように）……ピクピク震えててかわい  
い……。そんなセンパイが可愛い過ぎて、ゾクゾ  
クしちゃいます……。ほら、コリコリコリコリ……  
……」

結愛

「……このまま耳を舐めちゃいますねえ……ん  
ちゅっ、れろっ、ちゅっ……！ 耳との同時責めを  
しながら……コリコリコリ……れろっ、ちゅっ、  
ちゅぷっ……」

---

結愛

「れろっ、ちゅっ……んちゅっ、んんっ……！ コリ  
コリコリコリコリ……はふっ、んんっ、ちゅっ…  
…！ コリコリコリコリコリ……れろっ、はあ、  
んっ……ちゅっ、れろっ……！」

結愛

「コリコリコリコリコリ……んんっ、れろっ、  
ちゅっ、ちゅぷっ……！ コリコリコリコリコリ…  
…！ れろっ、んちゅっ、ちゅぷっ……！」

結愛

「じゃあ、反対側のお耳もお……」

結愛

「ぴちゅくちゅ、くちゅ……！ コリコリコリコリコ  
リ……！ れろれろっ、んっ、れろっ、くちゅ…  
…！ コリコリコリコリコリ……！ んふうん、れ  
ろっ、んっ、ちゅぷっ……！」

結愛

「コリコリコリコリコリ……れろっ、ちゅっ……ちゅ  
ぷっ、れろっ……！ コリコリコリコリコリ……！  
はあ……んっ、んぷっ、れろっ、れろっ……！  
コリコリコリコリコリ……！」

結愛

「コリコリコリコリコリ……れろれろっ、ちゅっ、れ  
ろっ……！ んぷっ、ちゅううっ！ れろっ……コ  
リコリコリコリコリ……！ コリコリコリコリコリ  
……！」

結愛

「……んー？ 何ですか、センパイ？ 耳を舐められ  
ながらの乳首責めがすごすぎる？ ふふふっ。気に  
入ったみたいですね。私も嬉しいですよお……コリ  
コリコリコリコリ……！」

---

結愛

「あんっ。またピクピクってセンパイの身体が跳ねま  
した……ほんと、私を興奮させるのが上手いですよ  
ねえ、センパイって……コリ……コリ……コリコリ  
コリコリコリ……!」

結愛

「……んちゅっ、れろっ、れろっ……!　コリコリコ  
リコリコリ……!　ちゅっ、んくっ、んちゅっ……  
れろっ……!　コリコリコリコリ……コリ……  
……!」

結愛

「……ふふっ。いきり立った卑猥な棒の尿道口から、  
ガマン汁が垂れて……物欲しそうにビクビクしてる  
……」

結愛

「でも……まだ我慢ですよ？　センパイ。今度は小豆  
ぐらいに大きく膨れたその乳首をちゅっちゅしてあ  
げますからね？」

結愛

「……ふふっ……センパイの乳首、グミみたいですよっ  
ごく美味しそう……いただきまーすっ……んんっ、  
ちゅぷっ、れろっ、ちゅぱっ……んちゅっ……れろ  
れろっ……」

結愛

「あはっ。舐めた瞬間、仰け反りましたね、センパイ  
……。指でコリコリされるのと、舐められるのと  
どっちが気持ちいいですか？」

結愛

「あ、指は指で気持ちいいんですね……でも舐められ  
るのも気持ちいいと……ふふっ。わかりました。」

---

---

結愛

「それじゃあ、舐めてない方の乳首は指でコリコリしてあげます。んー……れろっ、んちゅっ……ちゅっ、れろれろっ……んんっ……ちゅぶっ、ちゅっ……れろっ……」

結愛

「んちゅっ、れろっ……ちゅ……ちゅぶっ……ちゅっ……ちゅぶっ……ちゅくっ……れろっ、ちゅっ……んちゅっ、ちゅっ……れろれろっ、ちゅっ……んっ……ちゅっ……」

結愛

「はあ……美味しい……センパイの乳首、すっごく美味しい……！ はあ……舐めてる私が興奮しちゃうう……ふっ、ちゅくっ、れろ、ちゅる……ちゅっ、ふんむ……」

結愛

「もっと、もっと舐めますう……んえ、ふっ……はぶ、ん、ちゅっ……んちゅっ……れろっ、んぶっ……ちゅっちゅっ、れろれろっ、ちゅぶっ……れろっ、んちゅっ、れろっ……」

結愛

「こっちを舐めて……こっちをコリコリコリコリっしてしますね。あのセンパイが私に弄られて、背中を仰け反らせて、あんあん喘いで……、はあ……夢みたいです」

結愛

「今度は、ちょっと虐めちゃいます……。どうするかっていうと、乳輪の周りだけを舐めるんです……」

---

---

結愛

「れろっ……………れろ、ぺろお……………れろ、れろお……、れろっ……………」

結愛

「ふふふっ……………そうですよ？……………反対側の乳首も触つてあげません。指で乳輪をなぞるだけです……………触れそうで触れない感じ……………どうですか？」

結愛

「ちゅぷっ、ちゅぱっ……………んちゅっ、ちゅっ、れろっ……………ちゅぷっ、ちゅぱっ……………んちゅっ……………じゅぶっ、れろっ、ちゅぱ、ぷちゅ、んっ……………ちゅっ……………んくっ、ちゅぷっ……………」

結愛

「くる……………くる……………くる……………くる……………」

結愛

「れろっ……………れろ、ぺろお……………れろ、れろお……………」

結愛

「ふふふっ……………ビクビクってますっごく震えてますね。……………この焦らしに焦らした乳首を思いつき吸ったら、センパイはどういう風によがってくれるんでしょうか？」

結愛

「はああ、それじゃあ……………吸っちゃいますよお……………思いつき吸っちゃいますからねえ」

結愛

「ちゅううううううううううううううううううう……………ちゅぱっ！ はあ、はあ、はあ……………おいち。センパイの乳首って美味しいですねえ。もちろん、もう片方の乳首も弄りながら……………」

---

結愛

「コリコリコリコリ……ちゅっつっつっつっつ  
っっっっっ！」

結愛

「ちゅぱっ！……反対側の乳首もお……コリコリコ  
リ、コリコリコリ、ちゅっつっつっつっつっ  
っ！」

結愛

「……はあ、はあ、はあああああ……セ  
ンパイが反応するたびに……私もたまらなく興奮し  
てます……」

結愛

「後輩に乳首責められて感じてるセンパイよりも、セ  
ンパイの乳首を舐めて興奮してる私の方がヘンタイ  
かもしれないですね……ふふっ……」

結愛

「頑張って耐えてる先輩へのご褒美ってわけじゃない  
ですけど、このぷっくり膨らんでいる亀頭を……  
ぎゅっ！」

結愛

「あははっ。あうっ、ってセンパイ……すっごくかわ  
い！ほら？尿道口からガマン汁がたあっつ  
り垂れてますよ？ぬちゃぬちゃ……って」

結愛

「よっぽど気持ちよかったですね。それじゃあ、次  
は……乳首と亀頭を同時に刺激してあげますから  
ね？じゃあ……」

結愛

「シコ……シコ……シコ……シコお……あああ……セ  
ンパイのコレ、本当にかたあいっ……手で握ると脈  
打ってるのがわかりますね。ふふっ……」



結愛

「乳首も併せて……シコリ……シコリ……シコリ……シコリ……ふふっ。もどかしいですか？ うん？ もっと速くしてほしい？ じゃあ……」

結愛

「ペースをあげますよ？……ほら……ほら……ほらっ！ センパイ気持ちいいんでしょう？ あっ、あっ、あつて……喘いでますよ？」

結愛

「……亀頭も破裂しそうなくらい膨らんで、ピクピクって震えてますけど……もうイキそうですか？」

結愛

「いいですよ……！ いつでもイッて下さい……！ ほら、センパイっ。あっ、あっ、あっ……！ もつと喘ぎ声、聞かせて……！ あっ、あっ、あっ……！ あっ、あっ、あっ……！」

結愛

「もっと感じて、いっぱい喘いで……！ あっ、あっ、あっ……！」

結愛

「……腰を跳ね上げて……イキます？ イキますかセンパイ！？ コリコリコリ、シコシコシコ、コリコリコリ、シコシコシコ……！」

結愛

「あっ、出たっ！ 精液、ぴゅっぴゅって、いっぱい出ましたああっ！ でも、まだ手を止めちゃダメですよね……！？ 射精が落ち着くまでシコシコしてあげますから……！」

結愛

「ひゃっ、あっ……！ 凄い！ またぴゅって出た  
あぁっ！ あぁぁぁぁぁ……！ 射精って、す  
ごおいっ……！ んんっ、あぁぁぁぁぁ……」

結愛

「はぁぁぁぁぁぁ……いっぱい出ましたねえ…  
…私の手がセンパイの精液でべちよべちよですよ…  
…ふふふっ……」

結愛

「んちゅ……れろっ、ちゅっ……はぁ、精液……美味  
しい……亀頭もカリ首も精液だらけですから…  
綺麗にしてあげますね……」

結愛

「はぁむっ……れろおお、ちゅ、ちゅううう、ん  
くっ……！ はぶ、んくっ、ちゅっ……！ ちゅ  
ぱっ！」

結愛

「あ、そうだ。ついだから、乳首を弄りながらセン  
パイのコレ、綺麗にしてあげますね……ちゅぶっ…  
…くちゅ……れろろ……くちゅ……んふっ……れ  
ろろ……」

結愛

「はむっ。んっ……ちゅぶっ……くちゅ……れろろ  
……ちゅぶっくちゅ……ん……！ んぶっ、ん  
ぐっ……！ じゅるっ、じゅぶぶっ……！ ん  
ぶっ、ちゅっ、じゅりゅっ……！」

結愛

「ぶぁっ……！ フェラチオされながら乳首をいじら  
れてどうですか、センパイ？ 死ぬほど気持ちい  
い？ ふふっ。もう綺麗になっちゃいましたけど  
……もうちょっとなります？」

結愛

「あははっ。やっぱり必死で頷くんですね。かーわいー……。じゃあ、もう少しだけ……んちゅっ……れろっ、ちゅっ……！ くちゅちゅむっ……んんっ……くちゅ……んふっ……じゅぶっ……！」

結愛

「じゅりゅっ……んふっ……ちゅぶっ……れろれろ……！ んふっ……乳首をきゅって摘まむたびに、私のお口の中で、ぴくぴくって跳ねてますよ……はあむっ……」

結愛

「れろ、ちゅぶっ、くちゅ、じゅぶ……！ じゅぶぶっ、れろ、くちゅ、ちゅぱっ、ちゅぶ、んふっん、ぶぶぶっ……！ じゅぶぶぶぶっ……！」

結愛

「最後に、思いっきり吸ってあげます……んんっ……れろれろ……くちゅ……！ んふっ……ちゅむっ……くちゅ……！ ちゅうううううううううううううっ……！」

結愛

「ちゅぱっ！ はあ……もしかして、センパイ……今の乳首責めフェラチオでイキそうでしたか？ でも、まだ入れてない穴がありますよね……？」

結愛

「そうですよ。私の……エッチな穴、です。入れたくありませんか……？ 私もセンパイの硬くてあつういコレ……私のナカで感じてみたいな……」

★トラック05.センパイと中出しセックスしちやいます。

---

結愛

「いいですか、入れても……？ ふふふっ。わかりました。じゃあ、私とセックス……しましょうね。センパイは寝てて下さい。私が上になりますから……」

結愛

「あっ、エッチなお汁が垂れて亀頭にかかっちゃいましたね。とっくにずぶ濡れですから準備オツケーなんです。ですから、先っちょをここに……」

結愛

「あっ、凄いつ……亀頭のところ、すっごく熱い……え、ナカも熱いですか？ ふふふっ。私もセンパイも興奮しまくってるからですよ、きっと……」

結愛

「だから、いっぱい気持ち良くなりましょうね、センパイ……」

結愛

「……はっ、あっ！ んんっ、入るっ……！ すっごいつ……！ ああ、こんなおっきいのが、私のナカにいい……！ んんんんんっ………！……！」

結愛

「はっ！ ああああ……全部、入りました、よお……んんっ……！ 何ですか、センパイ？ じっとしてだけでも気持ちいい？ 私も気持ちいいですよ……！」

結愛

「でも、動いたら、もっと気持ちいいと思うんです。だから……んっ、あっ……！」

---

---

結愛

「こんな感じで、ゆっくり動いて、あああっ……！  
いいっ、私、とっても気持ちいいですっ……！ セ  
ンパイも感じてくれてるんですね……！」

結愛

「それくらいわかりますよっ、私のナカで、ピクピ  
クって動いてますから……！ んんっ……！  
はっ、あっ、んんっ……！」

結愛

「じゃあ、乳首を舐めなくてもよさそうですね？  
はあんっ……ふふふっ……意地悪な質問をしちゃい  
ました……舐めずにすむわけなんですもんね……  
……！」

結愛

「騎乗位なら、乳首を舐めながら腰を動せると言うん  
です……！ こうやって……！ れろっ……ちゅ  
ぷっ、くちゅ……んんっ……れろれろ……！ んふ  
ふっ、できました、乳首舐め騎乗位……！」

結愛

「このまま続けますねえ……！ んふっ……ちゅむっ  
……！ くちゅ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……  
……！ ちゅぷっ……くちゅ……れろれろ……！ く  
ちゅ……んふっ……れろれろ……！」

結愛

「はあんっ！ 乳首、舐めると、センパイの腰がび  
くって動いて、亀頭の先が一番奥に刺さりますっ……  
……！ 私の子宮に当たってますよおっ……！ だか  
ら、もっと……んちゅう、れろ、ちゅっ……！」

---

結愛

「ぶああっ……！ はあ、はあっ……！ 反対側の乳首もキュ〜って摘まんでコリコリしててあげますからね……！ ちゅぷつくちゅ、くちゅ……れろれろ……んはっ……れろれろ……！」

結愛

「もっと激しく腰を振りながら……あああっ……！ んっ……！ はっ……！ れろれろ……んっ……れろれろ……！ ちゅむっ……ちゅぷつくちゅ……！ ああっ……！ あふっ、んふうんっ……！」

結愛

「くちゅちゅぷっ……んふ……れろれろ……！ ちゅぷっ……れろれろ……ちゅぷっ……！ あああっ、これ、すごおいっ……！ ああああ……！」

結愛

「乳首いじっていると、亀頭が私のナ力でぶくって膨らみますね……！ まだおっきくなるなんて凄いですねえ……！ センパイはかわいいのに、下半身のコレはかっこいい……んっ……！」

結愛

「んんっ……！ 騎乗位だと、乳首をとっても舐めやすいですから、もっと、もっと舐めますね……！ んちゅう、れろ、ちゅっ……！ はあ……！」

結愛

「あんっ！ また、ナ力でピクピク動いてますっ！ なんだか乳首がスイッチみたいです……！ あああっ……！ れろっ、ちゅぷっ、ちゅうっうっうっうっ……！」

---

結愛

「ちゅぱっ！ んっ、あっ、ああああ……！ ん  
んっ、気持ちいいいつ、ああ……！ センパイ、私  
たちって相性ピッタリですよっ……！」

結愛

「センパイに告白して良かったあ……！ センパイ、  
好きっ、私、センパイのこと、大好きいつ！ ちゅ  
ぷっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっくちゅ…  
…！ あああっ、ホントすごいつ！」

結愛

「くちゅちゅぷっ、んふ……！ れろれろ、ちゅ  
ぷっ、れろれろ……！ ちゅぷっ、んふうん、ちゅ  
むっ……！ ちゅうううっ！ 乳首もはち切れそう  
なくらい勃起してますね……！」

結愛

「れろれろ……ちゅぷっ、れろれろ……！ くちゅ、  
れろれろ……！ ちゅむっ、くちゅ……！ ちゅ  
ぷっくちゅ……！ じゅりゅっ！ ちゅううううっ  
……！」

結愛

「ぶあっ！ センパイの乳首、美味しいっ！ 騎乗位  
しながら乳首吸うの、すっくいい……！ ちゅ  
ぷっ……！ くちゅ、ちゅぷっ、れろれろ……！  
んふうん、ちゅむっ……！」

結愛

「ちゅううううううううううう……！ ちゅ  
ぱっ！ はあ、はあっ、ああああっ！ もっと舐め  
ますよおっ……！ くちゅちゅぷっ、れろれろ…  
…！ はあああん、んんっ……！」

---

---

結愛

「ちゅぷっ、くちゅ、れろれろ……！　ちゅぷっ、くちゅ、んんふ……！　ぷあっ、はあ、はあ、はああああっ！」

結愛

「美味しいっ……！　私のエッチな穴でセンパイのコレを、ぱっくり啜え込んで、シコシコしながら乳首舐めるの、ほんと美味しいですっ……！　れろれろ、ちゅぷっくちゅ……！」

結愛

「んぐっ！　んくっ、んちゅうっ……！　はぶ、ずちゅ、れろっ……！　んぷうっ、ちゅ……！　んく、はぶっ、じゅふうっ……！　ちゅぷっくちゅ……んんふ……ちゅむっ……！」

結愛

「ぷあっ！　センパイ、私、も、もうイキそうですっ！　んんっ、センパイもですか！？　やっ たっ、嬉しいっ、一緒にイキましようっ！　最後に乳首、いっぱい舐めて、いっぱいじってあげますね！」

結愛

「ぺろ、ちゅ、ちゅぱっ、んちゅっ、れろっ、ちゅっ、れろれろっ……！　れろっ、んちゅっ、れろれろっ、んんっ、はぶっ、んちゅ、れろっ……！　んちゅううううううう……！」

結愛

「んっ、ちゅうっ！　イク、私、イキますっ！　センパイも私のエッチな穴に中出し、して、下さいいっ！　んちゅっ、ちゅっ、じゅぷっ、じゅりゅっ、ちゅううううう……！」

---





---

結愛

「イッた直後の敏感な乳首……はぁ……ちゅっ！  
れろっ、ちゅぶっ、ちゅっちゅっちゅっ……！  
じゅぶっ、れろっ、ちゅぶっ、ちゅっちゅっちゅっ……  
……！」

結愛

「ちゅば……！ はぁ、はぁ、はぁあああああ  
……。中出しも気持ち良かった……。乳  
首をいじられたときのセンパイの顔を堪能できて大  
満足です……」

結愛

「センパイの反応がかわいすぎて……でも、下半身の  
コレはカッコよくて立派で……私、センパイにメロ  
メロですよ……」

結愛

「私たちって相性最高ですねえ……はぁ……これから  
もセンパイをいじめさせて下さいね。もちろん中出  
しも……はぁ……大好きです、センパイ……ん  
ちゅっ……」

---